

静岡県牧之原市における「地域のカ」診断ワークショップ 2つの事例報告

東 宏乃 (静岡県立大学COC事業「ふじのくに」みらい共育センター・地域連携コーディネーター／
(一般財団法人生涯学習開発財団認定)ワークショップデザイナー・マスター)

相良(さがら)町と榛原(はいばら)町が、H17年(2005)に合併してできた市

人 口:46,500人

世帯数:16,625戸
(H29年4月末)

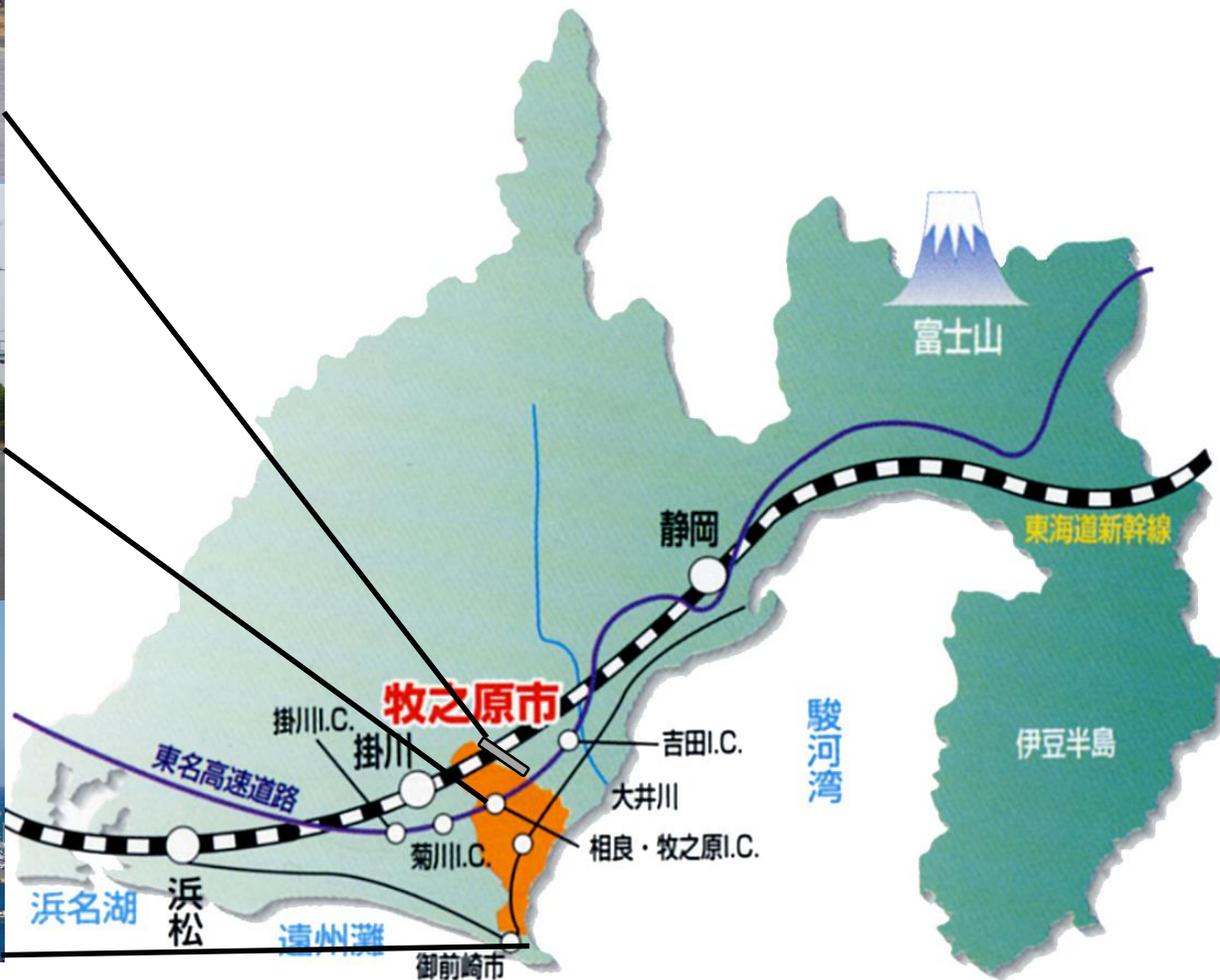
面 積:111.68km²

日本有数の茶どころ

* 荒茶生産 静岡一

* 深蒸し茶「産地賞」





陸・海・空のインフラが整備>>しかし鉄道の駅が無い⇔藤枝市などに人口流出

南海トラフ地震が来ると、地震と津波による甚大な被害が想定されている

海岸部（相良地区など）に人口が密集

市民との対話による津波防災まちづくり計画でつくられた
市内に7基ある津波避難タワー



静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター 牧之原みらい交流サテライト 2つのミッション



A: ワークショップによる地域の課題解決
(「市民とともに成長する図書館」のワークショップ)

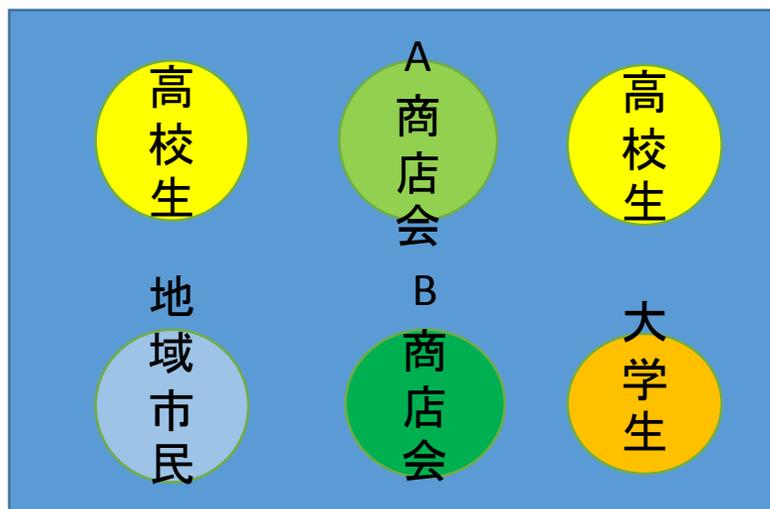


B: 学生のコミュニティワーク力を育むためのフィールドの開拓(市民に話を聴く)



相良地区の2つの**商店会**と県立相良**高校**とのコラボ（高校生は指名参加）
「**地域の力 診断ワークショップ**」（2016年11月28日（月）夜実施）

ある班の参加者の構成例
いろいろな属性の参加者が混じる
↓
普段出会わない市民が同じ土俵に



6人 × 6班 = 36人



商店街と高校のコラボ企画 「地域の力 診断ワークショップ」(2016/11/28)

全体のプログラム(19:00~21:00 120分)

第一部
診断ツール

6人×6班=36人
1つの班に、商店主、
高校生、地元市民、
県立大学生が混在

ワークブックにある
各自が質問に答え
採点し集計する
大人と高校生に分けて
集計結果が発表された

第二部
ブレイン・ストーミング

高校生を中心に
6つの班から1つずつ
6つのアイデアが
出てきた。
(CSOの報告書ご参照)

「診断ツール」の前後の動き

- (1) ワークショップに先立ち、高校生は、
商店街をフィールドワーク
- (2) 第一部 地域の力 診断ツールから
地区の特性(雇用が少ない、祭りが盛ん)が出た
- (3) 第二部 ブレイン・ストーミングでは
6つのアイデアが出て、「対話とプランニングの
ワークショップ」(3/27)でさらに具体化
- (4) 6月の文化祭:「相良焼そば」を復活させた
8月の商店街の夏祭り:高校ブースを複数出す
- (5) 今後は、地域活性化のための
「グランド・デザイン」が求められている

牧之原市全域(10地区)から参加者を公募(地元の高校生と大学生も参加)

「地域のカーみんなで考える私たちの未来」(2017年2月18日(土)午後実施)

ある班(テーブル)の参加者の構成

似通った地域性の地区の市民が同じ班に入る



似通った地区の地域の力を共に考える



6~7人×6班 ≒40人



「地域の力ーみんなで考える私たちの未来」(2017/2/18)

全体のプログラム(13:30~17:00 210分)

第一部 診断ツール

市内9地区と近隣市外
や静岡市から
42人が参加。
似たような地域性の
市民を同じ班に入れた
6~7人×6班=40人

診断ツールの
各設問に答えつつ、
地域のかって
何だろう?について
ブレイン・ストーミング

第二部 マグネット・テーブル

地域の力をのばして、
どんな取り組み
がしたいか?
そして、その組み
みを実現するには
どんな条件をクリア
すべきか?

「診断ツール」の前後の動き

(1) 県大COC主催の地域の課題解決のための「つながりワークショップ」(2016/1~5月)で、分野別イシューはすでに出ていた。

(2) 今回、「地域の力」を意識するワークショップを、市内全域を対象に行うことで、地区の境界を越えて、地域の強みをベースに未来への取組テーマをみつけることができた。

(3) さらに、WSで出会った市民が、その時のご縁で、つながりを創出する、あるいは、つながりを強化して何かに取り組むことが起こり始めている。

「MAKINOHARA CULTURE つ・な・ぐ」
「みんなの居場所 実行委員会」

「CLIP」「萩間 嫁の会」

「だららん♪ 凸凹の会」

(4) 新たなコミュニティの創出が起こった。

→ 地域に活力を生み、市民を勇気づけた。

まとめ：地域の力 診断WSの役割と限界

役割

- 異なる属性の市民が同じ土俵にのって、一緒に地域を評価できる

効果

- 目の前の困りごとにとらわれない発想ができる。

限界

- やりっぱなしにせず、具体的なアクションに繋げるためにオリジナルWSを接木する必要がある



「地域の力」診断WSの展開の可能性

診断ツールにある設問は、かなり理想的である。

高齢者や社会経験の少ない高校生には、わかりにくいのではないかな？

診断ツールにある設問の意味を学ぶ勉強会が、必要ではないかな？！

自分の地域に合わせ、診断指標を実際の生活にひきつけてとらえ直すワークショップがあってもよい。

